

パパイヤ高度栽培技術確立による経営改善

経営体の概要

基幹作物: パパイヤ
 経営面積: 68a
 法人経営体 構成員5人(専従3人)

取組の経緯と営農転換のポイント等

温暖な気候を活かした洋ラン経営が国外からの輸入増加による市場競争の激化やバブル崩壊後の景気低迷により年々単価が低下し、粗収益が落ち込む中で、試験研究とともにパパイヤの経営確立を模索し、経営の基本となる栽培技術の実証と品種の作出ができたことから平成元年頃からパパイヤ栽培を導入した。

以後、作付けを洋ランからパパイヤに随時転換し、平成10年にはパパイヤ専作経営に移行した。

営農改善のポイント

①栽培技術の確立・向上

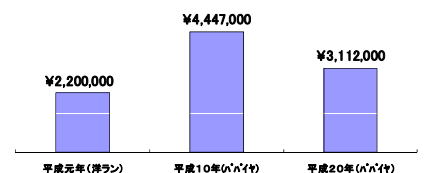
パパイヤの栽培は、台風や潮風で茎や葉が傷みやすく、24時間の滞水で根腐れを起こし、生産が不安定なため、県全域で施設栽培が進められて来た。また、生育が旺盛なため、2～3年で更新する栽培を行っている。

当農家は、コスト削減を図る目的で、施設を有効利用できる矮性品種の作出や株出し技術を確立する一方、旺盛な樹勢を抑える養液土耕栽培の研究を重ね、鉢栽培の土壌にサンゴダスト(サンゴのかけら)を混入することで、通気や排水を促す栽培法を実証、確立した。

この栽培法は石垣市の農家が広く技術を利用できるように市で特許取得し、本経営体の現在の栽培法となっている。



10a当たり粗収益の推移



②単収・品質の向上

パパイヤ栽培及び商品化を行う上では、高木性や耐暑性及び商品性(果型の揃い)が難点であることから、品種育成を重ね、前述の改良した品種を育成した。その品種は「石垣珊瑚」として品種登録されている。

さらに、組織培養技術を習得し、均一な苗生産と品質管理を行っている。

事業概要

事業種 国営かんがい排水事業
 関係市町 石垣市
 受益面積 3,460ha
 事業期間 昭和50年度～平成4年度
 事業目的 畑地かんがい、用水改良
 主要工事
 ダム 3箇所
 頭首工 2箇所
 揚水機場 5箇所
 幹線用水路 62km

位置図



<問い合わせ先>

沖縄総合事務局
 農林水産部
 土地改良課
 電話: 098-866-0031

(平成21年調査時点)